

週報 眞

編輯局報情
ンセ十・號七十七百二第・日三廿月六

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2



腹のたしになるものは
 何でも作るんだ
 『もつと飛行機を』
 と叫んだ前線に應へるために

外米を輸送船に積んでは
 我等の恥辱だ
 寸土も耕し食糧は自給だ
 さあ 増産で敵を斃せ

「時の立札」は他へ轉送との他に御利用下さい

山崎部隊長を鍛へあげた

名古屋陸軍幼年學校

大君の醜の御楯として、心身一切の力を盡し悠久の大義に生きる悦びは、實に三千年の國史を貫く皇國民の死生觀である。しかし「武士道とは死ぬものと心得た」もののみならず、この大義に徹するまでには骨身を削る苦節の修練がある。アツクに玉碎した山崎部隊長の如く、幾多部下の死生を預かり、一丸となつて從容死に ついた鐵の決断は、幼にして名古屋陸軍幼年學校において純忠の珠を磨いた修練の賜であつた。

幼年學校には、近き日皇軍の根幹となるべき幾多若き俊秀が大死に徹する皇軍魂を黙々と磨いてゐる。

敵の骨を断たん烈々たる闘志を假標切りの太刀柄に現はす三年生徒



山崎部隊長を
鍛へあげた
名古屋陸軍幼年學校

徒生年一ため固を身に履校



名古屋陸軍幼年學校は小牧、長久手、蒲井間など往年、鐵血兩雄等の争場之地にあり、古今の名將に倣ひ、校内の小高き丘、觀武臺に立てば、尾州平野を一時のうちに收め、校風である純直にして剛健、度量にして瀟灑の氣は自然のうちに培はれてゐる

本校の綱領の第八に『鞏固なる意志と強健なる體力とは武將として必須の要件である』と諭してあるが、生徒の日課は、朝五時十分の起床とともに、はち切れるはかりの元氣な身體を校服にキチンと包んで觀武臺に上り、先づ宮城を遙拜し、次いで家郷の父母にお辭儀をする。やがて、『我が國の軍隊は世々 天皇の統率し給ふ所に在る』と若々しい張りのある聲で勸諭の捧讀がはじめられる。そして、午前は教授部で、文官の先生によつて中學二年以上の普通學課を修得し、

午後は訓育部で、軍人の教官によつて教練武技の鍛錬を受け、初歩の軍事知識を授けられる。かくして、午前五時十分の起床から午後九時二十分の就寢まで勉學に餘念のない生徒の一日は、さらに訓育部長の、校長のいたはりの親の目が細かくゆきといてゐる

幼年學校といへば、すべて嚴格づくめの所とのみ考へ勝ちであるが、官吏や商人や學者などといろ／＼な人を世に送り出すのが中學なら、こゝは皇軍の根幹となる將校を志すものが集るいは、中學である。この陸軍幼年學校は、こゝ名古屋

一發必中の氣概に溢れる伏射の三年生徒



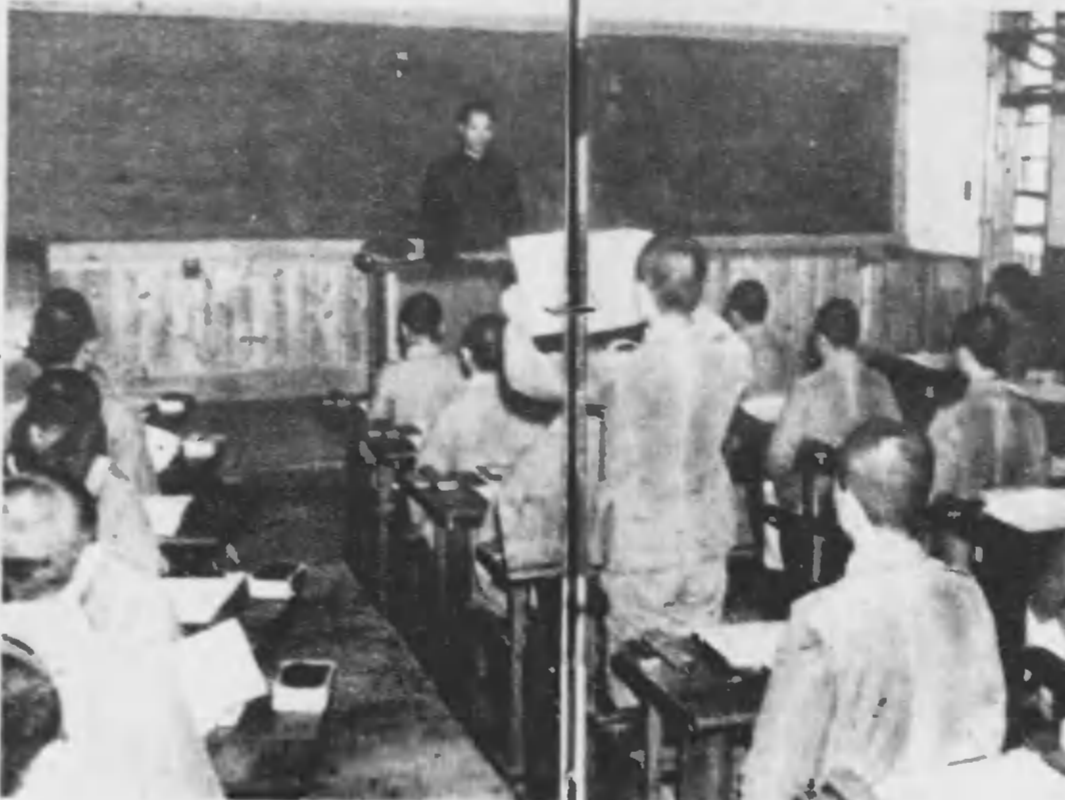
のほか熊本、廣島、大阪、東京、仙臺の六校があり、今年の生徒募集は六月一日から開始された

志願資格は、昭和四年四月二日から昭和六年四月一日までに生れた少年で、志願日は八月十日までである。身體検査は大體十一月十一日から同二十日の間に行ひ、續いて學課試験が行はれる。試験の程度は概ね中學校第一學年第二學期修業となつてゐるが、科目は國語、作文、地理、數學、歴史、理科の六科目である。志願者は教育總監部、各陸軍幼年學校、陸軍科士官學校及び全國の警備區司令部に四種切手を封入して請求すれば、志願者心得と志願用紙が送つて貰へる

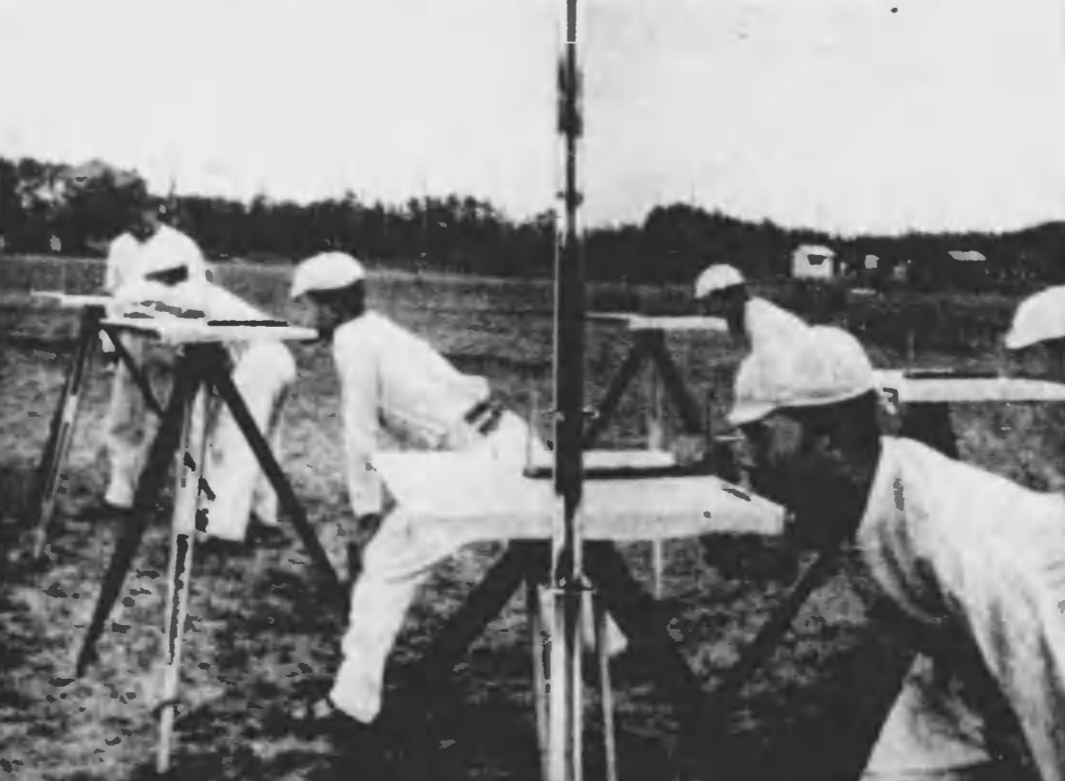


若々しい聲をはり上げて勸諭を捧讀する一年生徒

空中に美しい弧を畫がく三年生徒の遊轉



普通學課の講義を受ける一年生徒



測圖の實習に餘念のない三年生徒



者業廢轉の都帝 だ給自糧食せ耕も土可

農蹄に地拓開下縣城茨



「この場所から、最近のわが国の食糧事情を考へると、決して楽観は許されぬ。本年の主要食糧の供給計画としては、消費は当然年々増加の傾向にあるが、これに八千五百万石に増へ、供給部は、米に七百万石の増収を見込み、さらに今年度は、諸穀を米麦に加へて主食化すべく総合的な計画が立てられてゐるのであるが、その後、米の生産高は約六十万石を減じ、麦も今年冬の早稲などの関係で、或る程度減収を見込まなければならぬ情勢となり、現在のまゝでは計画通りの配給をすることは極めて困難

楽観を許さぬ 食糧事情

食糧自給には困難を伴ふ

現 在 食糧の増産確保は我が國の戦力の根柢をなしてゐる。元來我が國の國は、國土が比較的狭いにもかゝらず五穀が豊かに稔り、多數の人口を養ひながら食糧の大部分を國內で自給できたのは、國防上、非常な強みになつてきた。しかし一部とはいへ、食糧の不足を海外からの輸入に俟つてゐたこともまた事實で、これだけは戦争進行上、實に危険なことといはねばならない。さらに海外から米を輸入するには多くの船舶を要する。これらの船舶を直接自給に、または軍需資材の輸送に振り向けると出来れば、それだけ前線の戦力は強化されるのであつて、決戦の今日、米を運ぶための船は限り切りの詰りかねばならない。

この點から、最近のわが国の食糧事情を考へると、決して楽観は許されぬ。本年の主要食糧の供給計画としては、消費は当然年々増加の傾向にあるが、これに八千五百万石に増へ、供給部は、米に七百万石の増収を見込み、さらに今年度は、諸穀を米麦に加へて主食化すべく総合的な計画が立てられてゐるのであるが、その後、米の生産高は約六十万石を減じ、麦も今年冬の早稲などの関係で、或る程度減収を見込まなければならぬ情勢となり、現在のまゝでは計画通りの配給をすることは極めて困難



出役に先立ち宮城参拜もすませた。岸本市長が親身になつての激勵に「頑張るぞ」の意氣があがる。東京市では今年度から三ヶ年計画で帝都の周縁に「重時間開拓農場」を設置、帝都の轉廢業者の中から希望者を人種調査させて、人口の疎散、食糧の自給及び都市と農村の精神的融和を促進させることになつた。開拓の方針は労働基本を三町歩とし、うち一町歩は勤勞奉仕隊の援助により、一町歩は開拓希望者の努力奉仕と集約開成により、残りの一町歩を開拓者自ら開拓することになつてゐるが、随つて開拓希望者は一ヶ月位づつ、三回の開成を兼ねた現地開成をうけることになり、完全に開成するまで多少の期間は土への過しい挑戦が、轉廢業者などといふ消極的な氣持を見事ふきとばしてくれる。開成しない開成しない仕事だが、新しく時間生きる決意で奮闘し、田植も快速調で進んでゆく。

一日の働いた勤勞のあとには、楽しい常會を開き、その日の経験を語り、技術の研究もする。あるが、三度選つた條件の開成地における開成によつて永住の決意を固めるわけである。今年度の入植希望者は六百戸で、東京市では農地開成農園と農場の選定を進めてゐるが、第一農場として茨城県潮来町内浪瀨浦の干拓地二百町歩の選定を終り、さる六月七日岸本市長の激勵をうけて勇躍現地に開成した開成希望者約百名は、水田四町歩の田植を手始めに、開成農園を通じて過しい開成をうけてゐる。撮影 田村 茂



國國民學校も産増動員

食糧自給寸土も耕せだ給

吹上町 埼玉縣



食糧増産を阻害する勢力不足を緩和する一助として、今後、農家の國民學校児童の奨励が一層進められることだ。吹上町の吹上国民學校児童の例が示すように、この児童は國民學校以上の農耕の経験をもち、米一石六匁、小麦一石七匁、甘藷三俵、馬糞一俵と、また三千七百五十九匁の肥料を自給している。その他、青島、吉田、粟、一俵、馬糞一俵と、身に餘る肥料をふる。吹上国民學校児童の例が示すように、この児童は國民學校以上の農耕の経験をもち、米一石六匁、小麦一石七匁、甘藷三俵、馬糞一俵と、また三千七百五十九匁の肥料を自給している。その他、青島、吉田、粟、一俵、馬糞一俵と、身に餘る肥料をふる。

現在、農村は食糧増産に最も大切な農業期に入っている。この差迫つた農業期を切抜けるために、全國民が力をあけて努力し、農村の都市、特に地方の町などから青少年、一般市民などの努力を大政實現會諸團體を中心とする自發的な國民運動として適當な勤勞隊に編成し、戦地や農村の援兵として送りこむやう適切な方法がとられてゐる。また、農村國民學校児童の就労を一層強化し、専門學校以上の學徒も積極的に動員する方針がとられてゐるが、このほか地方の實情に即ち、農業増産に挺身せんとする農村青少年で食糧増産隊を編成し、臨時隨隊に出動して、開墾または農業に従事させる方針である。努力に次、問題として肥料、飼料だが、戦局の進展に伴い、それらは自給肥料、自給飼料の改良増産とその活用が改善し進歩すると共に、未利用資源の活用にもさらに一段の努力が要請されてゐる。

食糧戦に勝ち抜かう

決戦、日に迫る今年こそ、實に帝國の興亡の岐路とも考へられるのであるが、戦力の根幹をなす食糧の重要性からいって、農家の使命が今日ほど重いことにはかつてなかつた。しかも、食糧の自給確立には農村、漁村、都市の區別は全くないのであつて、上下をわけて全國民一丸となり、如何なる犠牲運動にも打ち克つ、強靱な戦争生活に徹することによつて、始めてその完壁を期し得ることを銘記すべきである。

で、今後の見越しとして相續窮屈になることが豫想される。そこで、政府では食糧増産急進策を決定、本年産増の食糧自給に完全を期するためにも、また將來に備へるためにも、この際、あらゆる方法を講じ、尙くも増産の餘地のあるものはよくこれを實行に移すことになつたのである。

動員に努めることは勿論、その地方の實情に即ち、農家の努力を促すことも、増産の鍵を握りかねない。また、村々の見込みを、個人にまかせず、市町村農會または農業青年會を通じて責任を持ち、水田の耕作を促進することになつた。なほ、全国を通じて増産に上ると思はれる耕作停止畑及び傾畑、切替畑、伐木跡地、河川敷、荒地、工場建設地など、あらゆる休耕地をこの際、開墾することなく利用し、努力は部落農業青年會、青少年團、婦人會など、各方面の動員によつて、粟、大豆を主とし、地方によつては、小麦、粟などの穀類または南瓜など、各地方に適した食糧作物の作付けをして、この國土に寸土も遊んでゐる土地のないやうにすることに上つた。ともかく、あらゆる丁と努力を盡して、食糧自給の何れでもいかに、神力作を講じて

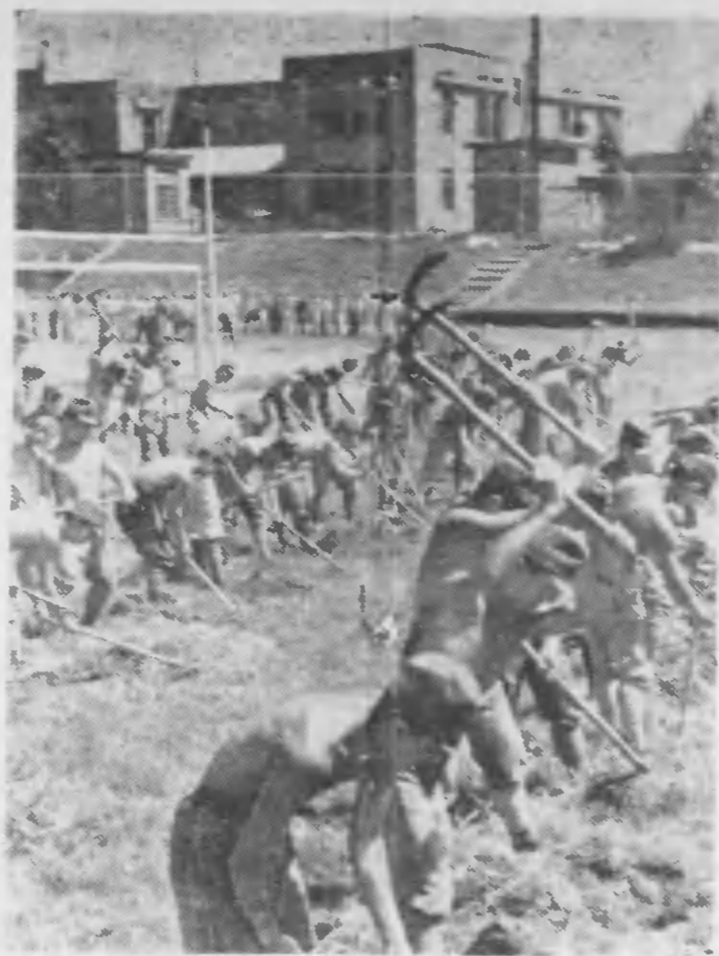
次ぎに現在、食糧戦を勝ち抜くために浸された土地は何か、といへば、誰しも増産の増産であるといふ。増産の増産の増産の大いなる努力は、これら政府でも本年は特に増産に努めて来たが、今後もそうである。

食糧増産隊の結成

食糧増産を遂行してゆく上にいろいろ問題が多いが、今日最も大きな問題は努力である。努力はいろいろ、創意工夫をこらして、更にこれまでとられた措置を一層強化して、出来るだけ農村内部でその活用をはかることが望ましいが、農家の努力には限度がある。



庭園も 見せしめる。農業従事者の労働力は、戦時体制の要請により、あらゆる面で活用された。戦時体制下の農業労働者。



戦時下で進むべき国民は一人も欠けてはならない。戦争がすすむにつれて、食糧の確保は、戦況に直結する。食糧増産は、戦勝の要諦である。戦時体制下の農業労働者。食糧増産のため、農家は、戦時体制下の農業労働者として、食糧増産に力を尽くした。食糧増産は、戦況に直結する。食糧増産は、戦勝の要諦である。戦時体制下の農業労働者。食糧増産のため、農家は、戦時体制下の農業労働者として、食糧増産に力を尽くした。

だ給自糧食せ耕も土寸 もに通車電 を畑

東京市



河床も立派な畑だ。――水田の活用。――稲作は、戦時体制下の農業労働者にとって、食糧増産の重要な手段となっていた。戦時体制下の農業労働者。

空地なんぞありません。――本郷区。――戦時体制下の農業労働者。食糧増産のため、農家は、戦時体制下の農業労働者として、食糧増産に力を尽くした。

――戦時体制下の農業労働者。食糧増産のため、農家は、戦時体制下の農業労働者として、食糧増産に力を尽くした。戦時体制下の農業労働者。食糧増産のため、農家は、戦時体制下の農業労働者として、食糧増産に力を尽くした。



台湾の空を護る

本島人防空監視員

一機でもわが本土を窺ふ敵機があつたら、この眼に物をいはせてと爛々とみひらいた瞳を大空に向け、秒刻のゆるみなく姿なき敵機を求め、黙々と見張りつづける防空監視員の火のやうな責任感と言語に絶する勞苦

防空必勝の構への陰にかうした

人々のあることを、われら國民は肝に銘し、絶対不敗の信念をもつてより堅い防空陣を築き上げなければならぬのだ

本土前哨の一つとしてこゝ臺灣〇〇の監視哨には、大東亞戦以來一入高まつた本島民としての自覺と誇りと責任感をもつた本島人の

壯丁が、訓練をつんだ鋭敏な聴覚と視覚に物をいはせて、微かな音、一點の黒影も見逃すまいと、兵隊さんや警察官と共に、日夜備とした護りにつき、敵機一機たりとも侵入をゆるさずと鐵壁の陣を張つてゐる

臺灣軍司令部検閲済



「監視員は、敵機の姿を、一秒刻もゆるみなく見張りつづける。その姿は、火のやうな責任感と、絶する勞苦を、眼に映し、心に刻み、大空に向け、一秒刻もゆるみなく姿なき敵機を求め、黙々と見張りつづける。その姿は、火のやうな責任感と、絶する勞苦を、眼に映し、心に刻み、大空に向け、一秒刻もゆるみなく姿なき敵機を求め、黙々と見張りつづける。」

（右下）





赤道下の農民道場

北ボルネオ
セリヤン
オネリ
オンヤ



褐色の皮膚にはねかへる赤道下の陽光、日本の農光を獲得するイバンの青年は、勤勞の豊さを知り、温しく立ち上るの光



北ボルネオの久遠の街から東南へ、垣々たるアスファルトの道路を走ること七十七キロ、セリヤンといふ部落がある。皇軍が破竹の進撃をしたその日からほどなく、このセリヤンの部落に、日本の兵隊さんがたつた一人やつて来て、附近の住民であるイバンの青年らを集め、日本式の農耕法による農産物の増産指導を開始した。豊饒なる沃野に彼等イバンの男らは、原始的な方法で自分らの食べるに必要なだけの米を栽培し、それ以上は決して多く米や野菜を作らうとしなかつた。彼等の單純な頭に、兵隊さんは熱心に大東亞戰の意義を説き、彼等民族の精神の昂揚をはかつた。日本の兵隊さんの強さの前に、絶大の尊敬をしまぬ彼等イバンの頭の中にも、おぼろげながら大東亞の曙光が輝きかけてきた。そして、幾月かの月日が流れ、日本の兵隊さんのやり方で、米でも、野菜でも、栽培したものはいかんな立派に生育した。かつて見たことのない澤山の收穫があつた。純朴な彼等のうちにも、若い日本の兵隊さんの熱烈な農業指導の精神にうたれて、集ひ来るものが日増によえて来た。兵隊さんの顔に汗と微笑が輝いた。農民道場の立派な看板が掲げられ、その下をくぐる者が百名以上にもなつた。米はよく賣つた。タバコはスタックと伸びた。大地の懐ろにいだかれた彼等農民の心の中にも、伸びゆく建設ボルネオの足音が聞かれた。今日は新しい農民道場の終業式が州長官臨場の下に行はれた。州長官の手から一人々々に一挺の銃が御褒美に渡された。イバンの青年等の胸はふくらんだ。嬉しい手に、足に、元氣が滲いて、感激がスコールの雨足のやうに押しよせて来た。開下の前におしいたぐいた『一挺の銃』の感激は、彼等にとつては一生忘れることの出来ぬものであつた。山奥の故郷に歸り、日本の兵隊さんから習つた農耕法で、食糧の増産に邁進しようと思つた心は明るかつた。父や母や兄弟や友達に、日本の兵隊さんのやうに、他が田の作り方を教へてやるんだ。サラワタの大平野につばくろが飛んで、ブラチナの太陽が

日本式水田耕作法は原住民の間にも理解され、その多收穫に驚嘆の目を見張らせた。そして、遺棄の水田には彼等の手によつて瑣々しい早苗が植あつた。田面を渡る南風の風も爽やかだ



今日この道場の終業式だ。州長官閣下から贈書と一挺に似いた『一挺の銃』これを贈き上げるのがイバンの年達の希望だ



故郷の沃野が廣々*とひらかれてゐる。豊かな天恵を自分達の手でより豊かにするのだと思ふと、希望の輝かしさに、故郷への足もおのづから軽々とはづんでくる

ほい、あんでゐる
膝足に踏む朝露のさわやかさ。さあ、今日も元氣で土と闘はう



米はもとより、タバコも甘藷も芋も、作物はすさまじいほどに生き生きとひびやまない。南國の自然方の旺盛さ

杯一氣元は3日の南

校學小人本日のブセ島比

◻ 將來現地の住民を指導するためにも、まづ立派な日本人になることが大切だ。なか／＼厳格な精神教育

◻ ニラバハウスとバナナのある比島の道をお手々つないで仲良く登校

撮影 比島事情記者



◻ 校庭で敵れ遊ぶ子供たちの顔には、もう悲惨な戦火のあととはみられない

◻ 昨年四月敵アメリカの焦土戦術により殆んど破壊された比島第二の都市セブ市は、その後が軍政當局の血の滲む努力によつて着着復興、住民も大半は復讐し、それ／＼生業に歸りセブ市再建に鋭い協力をしてゐるが、このほど比島軍政當局はセブ支部ではセブ市再建委員会を設け、その第一着手として職業紹介所、官民連絡所、労働者收容所などを設け、積極的に國民経済の温い手をさしのべることにした。なほ、島軍に陸と同時に出された、當時二百三十八名に上る邦人も、引續き現地に在つて將兵と協力、多年の経験を十分に發揮して新セブ建設に懸命な活動を續けてゐる。寫眞はセブ日本人小學校に學ぶ現地の子どもたち。

◻ 元氣に日の丸を振つて旗揚げ

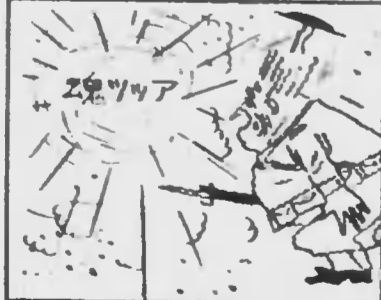
六善 子益 誌日画漫争戰亞東大



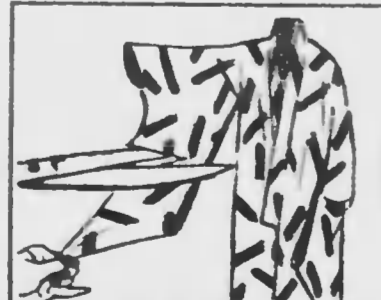
死闘を枕戦艦の襲来



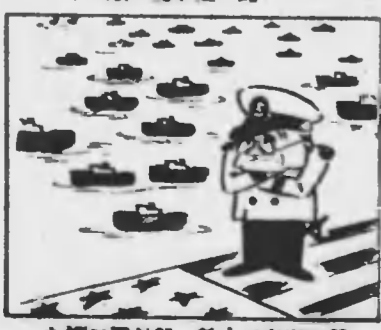
る人に營陣平和然決軍將榮



く戦艦に砲撃の島ツアア



備費々働化軍團の活生衣時職



む艦に襲撃船 離もて東出は船



艦軍を機河十東東の空 軍空伊



母、復讐の道を子に願ふ

志村つね平

ねえ、母、早くか戦艦を撃つて北の兵隊さんに降上つたでしょ。その兵隊さんが、撃死なされたよ。お母さん、今度こそは大砲や飛行機をど／＼撃つてあげませう。それには貯金をするのが第一よ。

決死出陣 白路 蔵

「あなた頑張って頂戴」「お父ちゃん、しつかり」「よし、やるぞ。今日からは生身決死隊だ。戦場で討死するんだ。あとほむぞ」

昭洋兵器



◻ 増産復讐へ一家總出動 寺尾よしとか

「隊長さん、家内も年寄りも娘も、せめて元帥北の恨みを増産で晴らしたい」といつて聞かないのですが、ヒソヒソと...

★表紙

「時折なくして勝利なし」と大政翼賛會並びに東京市が去る四月二十日以來、全市三十五區の街頭から街頭へ貯蓄總進軍を呼びかけてきたが、百五十回日の最終日、九日には賀屋大蔵大臣が自ら陣頭に立ち、在原四戸國民學校の校庭に集つた國民二千餘名に講演隊のトラック上から呼びかけ、南に北に敬奉玉碎され英靈に報いるには何を以てすべきか、それは十分なる兵器彈薬を前線に送ることであり、これを果すために我々のなすべきことは、勤勞、節約、そして貯蓄であると絶叫した

流石は靖國の子

木下 紀雄



敵軍を破つたトラツカを見送り出た坊や「お母ちゃん、放してよ。ボク、お父さんの仇を討つてやる」



後に續くもの

佐次たかし

「まあ、早いものですわね。坊ちゃんももうこんな年にもなりました。と、とんでもない。少年飛行兵にはまだ四年もあるかと思ふと、じれったくて、じれったくて」

寫眞週報 昭和十八年六月廿三日 印刷部 印刷局 印刷發行 東京市豊島区 豊島印刷局 電話 百七十七番

戰時 下 國民の義務



大阪貯蓄銀行

大阪東區伏見町三丁目 案書進呈



内閣印刷局印刷發行

本誌を回覧に
本誌を、隣組や職場
で回覧するなど、出
来るだけ有効に御利
用下さい。
前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様で封封あ
るひは開封にして第
一種と明記すれば、
一部一錢です。

所 送 申	價 定
全國各地官報 販賣所	▲特夫費の場合は 其の都度御申込 金より差額を申 受けます。
書店・驛賣店 新聞販賣店 寫眞材料店	一部十錢 (送料一錢) ▲外貨郵送に依 る地域は送料 共一部十九錢 受けます。

昭和十八年六月
廿三日 印刷發行
編輯者
東京市豊島区
水田町一丁目
一
印刷局
發行所
内閣印刷局
東京市豊島区
伏見町三丁目

寫眞週報
(禁轉載)

〔列傳欄はA4所載定額は33大の書本〕